

## 一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構

## 令和6年度事業報告

## 1. 人材育成事業

## ① DCA 教育実施機関における科目認定による資格付与の承認（継続事業）

期初から期末までの資格申請数は、150名（2級15名、3級135名）であった。令和5年度の103名（2級5名、3級98名）と比較すると5割弱の増加となった。なお、この大半は科目認定プログラム実施校からの申請者であった。

## ② DCA 教育実施校への支援（継続事業）

DCA 教育実施校への支援としては、以下の通り。

- (1) 令和元年度以降、千葉商科大学では DCA3 級取得者を対象に DCA2 級課外講座を実施してきているが、本年度も同大学の夏季休暇中に実施した（10月4日・7日）。課外講座の講師は、例年通り、千葉商科大学教員と DCA1 級資格を取得済みの DCA 委員とが協働して務めた。
- (2) 東北福祉大学の DCA2 級科目認定プログラムについては、下半期に専用の授業が開講された。この授業に対して、I-ROI 事務局より実習授業用の教材と、修了試験用の試験問題を提供した。

## ③ DCA2 級修了試験の新規作問（継続事業）

千葉商科大学および東北福祉大学で実施している、科目認定プログラム向けの 2 級試験問題は、2024 年度実施分については、9 月の DCA 委員会までに本試験用と再試験用の 2 セットの作成を完了した。

## ④ DCA2 級・3 級資格の取得方法の拡充（継続事業）

一般の社会人を念頭に、筆記試験を受験することで DCA2 級資格及び DCA3 級資格を取得できる方法（以下、「一般試験」）を整備することについては、昨年度に着手された試験問題の策定作業を継続して実施した。

社会人のニーズを考慮して、DCA3 級よりも DCA2 級の枠組みを優先して整備してきた。

## ⑤ DCA 資格の認定状況

DCA 資格認定者数は、次の表の通りである。

## 資格認定者数

総数 1,790 名（1 級 10 名、2 級 98 名、3 級 1,682 名）

## DCA1 級資格取得者数(3月31日)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
科目認定実施校の教員	-	-	-	-	-	-	-	4	0	0	0	4
その他	-	-	-	-	-	-	-	6	0	0	0	6
合計	-	-	-	-	-	-	-	10	0	0	0	10

### DCA2 級資格取得者数(3月31日)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
千葉商科大学	-	-	-	-	-	1	5	2	5	1	2	16
東北福祉大学	-	0	0	0	12	13	22	9	9	4	13	82
合計	-	0	0	0	12	14	27	11	14	5	15	98

### DCA3 級資格取得者数(3月31日)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
青山学院大学	17	17	5	0	0	-	-	-	-	-	-	39
江戸川大学	-	-	-	-	-	-	41	43	26	13	22	145
埼玉工業大学	0	0	83	0	1	0	-	-	-	-	-	84
千葉商科大学	30	34	21	37	23	14	41	78	58	41	44	421
東京工科大学	34	25	27	40	26	19	11	11	5	6	24	228
東北福祉大学	0	50	39	79	61	94	134	71	32	31	43	644
日本工学院八王子専門学校	-	-	-	-	14	35	0	0	9	0	0	58
eラーニング	-	-	-	-	19	15	16	11	1	7	2	73
会員企業	-	-	-	2	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	81	126	175	158	144	177	243	214	131	98	135	1682

## 2. 普及啓発活動

### ① 開発済みの子どもゆめ基金教材

- ・独立行政法人青少年教育振興機構 子どもゆめ基金による教材開発の助成金は、開発後3年間は開発団体が積極的に普及活動を展開することとなっている。
- ・過去、当機構が開発した子どもゆめ基金教材は、以下の通り。いずれの教材も子どもゆめ基金から義務付けられている普及活動期間は終了しているが、引き続き I-ROI ウェブサイト (<https://i-roi.jp/seisyonen-kyozai>) で 公開を継続する。

R2 異世界で学ぶ はじめての情報セキュリティ

R1 これで安心！ フリマアプリやネットオークションとの付き合い方

H29 どうぶつの町でトラブルがおきた！

～スマホやゲームの使い方、キミならどうする？～

H26/27 ネット社会を生きる力 インターネットを使いこなす 6 つのひけつ

### ② 子どもゆめ基金教材開発

- ・令和6年度子どもゆめ基金教材開発・普及活動には、「スマートなデジタル社会人になろう！ 「ファクト」と「フェイク」、どう見分けてどう対処する？」が採択された（採択金額937万円）。開発作業の終了後、年度末に当機構のウェブサイト上で公開を開始した。
- ・同教材については、9月に大学生、1月に高校生を対象としたトライアウトを実施した。

### ③ 子どもゆめ基金教材への応募

- ・令和7年度子どもゆめ基金教材開発・普及活動については、11月に「賢く使おう、ネットでマネー 10代から始めるエシカルなオンライン・トレード」と題したデジタル教材を提案した。申請金額は836万円。12月に1次審査（書類審査）通過の報を受け、2月7日には2次審査（プレゼンテーション審査）が実施されたが、3月末に残念ながら不採択との連絡を受けた。

### ④ 各種啓蒙活動への参加

- ・例年に引き続き、「高校生 ICT カンファレンス」など各種イベントに積極的に関与し、機会を捉えて、I-ROI 開発のコンテンツを紹介するなどして啓蒙活動を行った。
  - ・Grafsec（一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会）が 8 月 25 日に開催した会員連絡会に参加するなど、I-ROI の関連団体との提携を緊密にはかり、効果的な普及啓発活動が展開できるよう検討を進めている。
- ⑤ 総務省との意見交換
- ・上半期には、6 月 17 日、7 月 18 日、8 月 21 日の 3 回にわたって、植田代表理事と久保谷事務局長が総務省を訪問した。3 回の訪問では、湯本博信氏（大臣官房総括審議官（情報通信担当））、西久美子氏（情報流通振興課情報活用支援室長）、菅原ゆりあ氏（情報流通適正化推進室）、稲葉由貴氏（情報流通適正化推進室）の 4 氏と意見交換を行った。
  - ・総務省の窓口は「情報流通行政局 情報流通振興課 情報流通適正化推進室」となるが、今夏の人事異動により担当者が従前の菅原氏から変わった。現任の稲葉氏とは、継続的に連絡を取り合っている。
  - ・下半期には、1 月 21 日に植田代表理事、上沼理事、菊池理事、久保谷事務局長、小牧事務局職員が総務省を訪問した。情報流通振興課の吉田弘毅企画官、情報流通適正化推進室の稲葉由貴氏と片山遥氏の 3 氏と意見交換を行った。意見交換のテーマは、偽・誤情報等への対策技術。
  - ・3 月 7 日には、植田代表理事、菊池理事、久保谷事務局長が総務省を訪問し、情報流通振興課の吉田弘毅企画官、情報流通適正化推進室の武田朋広氏と稲葉由貴氏、高橋伶介氏、片山遥氏の 5 氏と意見交換を行った。意見交換のテーマは、1 月の訪問時に引き続き、偽・誤情報等への対策技術。

### 3. 新規事業の検討

令和 6 年度第 1 回理事会で承認された方針に基づき、「AI により生成されたコンテンツ」と「SNS の不適切投稿・不適切利用」に絞って検討を進めてきた。

このうち、「AI により生成されたコンテンツ」については、DCA 資格の新教材のコンテンツとして、生成 AI と著作権をテーマとしたコンテンツを上沼理事に執筆いただいた。同コンテンツは 4 月以降に当機構ウェブサイトで公開予定である。

「SNS の不適切投稿・不適切利用」については、1 月 21 日と 3 月 7 日に総務省を訪問して「偽・誤情報等への対策技術」に関する意見交換を行うなど、政府の施策・動向を見極めながら検討を進めているところである。

### 4. 令和 6 年度決算

別紙資料(資料 2-1)を参照。

以上